

《担当者名》福田真二

【概要】

この科目では、言語聴覚学に関係する様々なトピックについて心理言語学的視点から学ぶ。

【学修目標】

ことばと脳の関係に関する研究動向について学び、それらの研究成果から得られた知見を統合的に理解する。

1. ことばの起源に関する諸説を理解し、述べることができる。
2. ヒトの言語能力と動物のコミュニケーション能力の違いについて理解し、述べるができる。
3. 自然言語処理過程における言語情報の脳内処理過程について説明できる。
4. 特異的言語障害を言語学的・脳科学的・遺伝学的アプローチで分析した研究の動向とその応用について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、レポート課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。	福田真二
2 }	ことばの起源	ヒトのことばはいつ頃、どのような形で誕生したのだろうか。このテーマに関するいくつかの諸説について学ぶ。 【ビデオ鑑賞：「言語の誕生」】	福田真二
3			
4 }	ヒトのことばと動物のコミュニケーション	ヒトの言語能力と動物のコミュニケーション能力の違いについて学ぶ。	福田真二
5			
6	ことばの理解のメカニズム	文理解のメカニズムの基本について学ぶ。	福田真二
7	ことばの理解のメカニズム	袋小路文、中央埋め込み文、曖昧文の理解過程について学ぶ。また、文理解時におけるワーキングメモリの役割について考える。	福田真二
8	ことばの発話のメカニズム	文発話のメカニズムの基本について学ぶ。	福田真二
9	ことばの発話のメカニズム	発話時の「旧・新原則」と「短・長原則」について学ぶ。また、言い間違いが起きる過程について考える。 【小テスト】	福田真二
10	言語の脳科学	言語学と脳科学を組み合わせた研究の近年の動向について学ぶ。 【ビデオ鑑賞：「言語の脳科学」】	福田真二
11	特異的言語障害	特異的言語障害の原因論に関する諸説について学ぶ。 キーワード：定義/診断基準/微細脳機能不全症候群/併発する障害/個人差説/環境説	福田真二
12	特異的言語障害	特異的言語障害の言語学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：文法障害/統語障害/構音障害/音韻障害	福田真二
13	特異的言語障害	特異的言語障害の言語学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：失語症との比較 【読書課題：長畑(1991)】	福田真二
14	特異的言語障害	特異的言語障害の脳科学的アプローチによる研究成果について学ぶ。 キーワード：fMRI/PET/SPECT/NIRS/ERPs/MEG 【読書課題：春原ら(2002)】	福田真二
15	特異的言語障害	特異的言語障害の遺伝学的アプローチによる研究成果について学ぶ。	福田真二

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		キーワード：家族性言語障害/双生児研究 【小テスト】	

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート 40%、小テスト 60%（30%×2回）

【参考書】

萩原裕子 著 「脳にいだむ言語学」 岩波書店 1998年

酒井邦嘉 著 「言語の脳科学」 中公新書 2002年

酒井邦嘉 著 「脳の言語地図」 明治書院 2009年

Leonard, L. B. 著 Children with Specific Language Impairment (2nd ed.) The MIT Press 2014年

Jackendoff, R. 著 Foundation of language: Brain, meaning, grammar, evolution. Oxford University Press 2003年

Grodzinsky, Y. 著 Theoretical perspective on language deficits. The MIT Press 1990年

Caplan, D. 著 Neurolinguistics and linguistic aphasiology: An introduction. Cambridge University Press 1987年

【備考】

適宜、資料を配布する。

【学修の準備】

- ・予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。（80分）
- ・復習は、講義の学習内容をまとめた勉強ノートを作成すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。